

今だからこそ予防できる“がん”があります



どのくらいの方が子宮頸がんになるの？

- 日本では毎年、約1.1万人の女性が子宮頸がんにかかり、毎年、約2,900人の女性が子宮頸がんで亡くなっています。
- 患者さんは20歳代から増え始めて、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう(妊娠できなくなってしまう)人も、1年間に約1,000人います。

出典：国立がん研究センター がん情報サービス
2019年全国推計値に基づく累積罹患リスク、2021年累積死亡リスク、2021年人口動態統計がん死亡データより

子宮頸がんで苦しまないためにできることは？

ポイント
① HPVワクチンでHPVの感染を予防



ポイント
② 子宮頸がん検診でがんを早く見つけて治療

ワクチンを接種していても、していなくても、20歳になったら2年に1回、必ず子宮頸がん検診を受けてください。

公費でHPVワクチンを接種できる対象者は？

- 小学校6年～高校1年相当の女性
- 高校2年相当～1997年度生まれの女性

誕生日が1997年4月2日～2007年4月1日の女性で、まだHPVワクチンの接種を受けていない方も、2025年3月末まで、公費で接種できます。

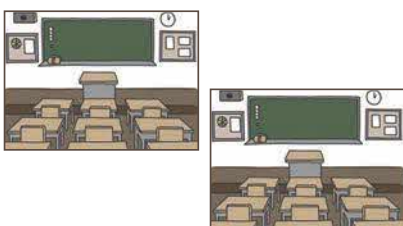
詳しい情報はこちらをご覧ください。



【一生のうち子宮頸がんになる人】 【子宮頸がんで亡くなる人】

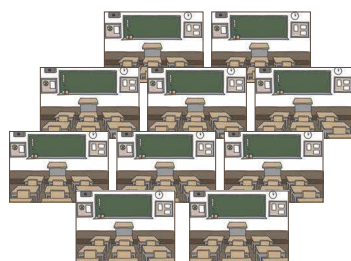
1万人あたり132人

2クラスに1人くらい



1万人あたり34人

10クラスに1人くらい



(1クラス約35人の“女子クラス”として換算)

HPVワクチンについて、もっと詳しく知りたい方は厚生労働省のホームページをご覧ください。



厚生労働省 HPV

HPVワクチンに関するよくあるご質問(Q&A)については、こちらをご確認ください。



ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare